

主日礼拝

2022年06月26日
午前10時30分

前奏 「感謝のうちに」 (F. クープラン)

参集 (報告・紹介・予定)

招詞

「希望はわたしたちを欺くことはありません。
わたしたちに与えられた聖霊によって、神の
愛がわたしたちの心に注がれているからです。」
(ローマの信徒への手紙 5：5)

頌栄 27 「父・子・聖霊」

ちち子せいのひとりの主よ、さかえとち
からはただ主にあれ、とこしえまで。
アーメン。

交読詩編 32：1～7

司式者：いかに幸いなことでしょう
みんな：背きを赦され、罪を覆っていただいた者は。
司式者：いかに幸いなことでしょう
みんな：主に咎を数えられず、心に欺きのない人は。
司式者：わたしは黙し続けて
みんな：絶え間ない呻きに骨まで朽ち果てました。
司式者：御手は昼も夜もわたしの上に重く
みんな：わたしの力は
夏の日照りにあって衰え果てました。
司式者：わたしは罪をあなたに示し
みんな：咎を隠しませんでした。
司式者：わたしは言いました
「主にわたしの背きを告白しよう」と。
みんな：そのとき、あなたはわたしの罪と過ちを
赦してくださいました。
司式者：あなたの慈しみに生きる人は皆
あなたを見いださう間にあなたに祈ります。
みんな：大水が溢れ流れるときにも
その人に及ぶことは決してありません。
司式者：あなたはわたしの隠れが。
みんな：苦難から守ってくださる方。
一緒に：救いの喜びをもって
わたしを困らせてくださる方。

祈禱

献金 献金箱が受付に置いてありますので、礼拝前にお献げください。

主の祈り

天にまします我らの父よ、
ねがわくは み名をあげさせたまえ。
み国を来らせたまえ。
みこころの天になるごとく
地にもなさせたまえ。
我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。
我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく、
我らの罪をもゆるしたまえ。
我らをこころみにあわせず、
悪より救い出されたまえ。
国とちからと栄えとは限りなくなんじのもの
なればなり。アーメン。

聖書 マルコによる福音書 5：1～20

新約(新共同訳)P69

一行は、湖の向こう岸にあるゲラサ人の地方に着いた。イエスが舟から上がられるとすぐに、汚れた霊に取りつかれた人が墓場からやって来た。この人は墓場を住まいとしており、もはやだれも、鎖を用いてさえつなぎとめておくことはできなかった。これまでも度々足枷や鎖で縛られたが、鎖は引きちぎり足枷は砕いてしまい、だれも彼を縛っておくことはできなかったのである。彼は昼も夜も墓場や山で叫んだり、石で自分を打ちたたいたりしていた。イエスを遠くから見ると、走り寄ってひれ伏し、大声で叫んだ。「いと高き神の子イエス、かまわないでくれ。後生だから、苦しめないでほしい。」イエスが、「汚れた霊、この人から出て行け」と言われたからである。そこで、イエスが、「名は何というのか」とお尋ねになると、「名はレギオン。大勢だから」と言った。そして、自分たちをこの地方から追い出さないようにと、イエスにしきりに願った。
ところで、その辺りの山で豚の大群がえさをあさっていた。汚れた霊どもはイエスに、「豚の中に送り込み、乗り移らせてくれ」と願った。イエスがお許しになったので、汚れた霊どもは出て、豚の中に入った。すると、二千匹ほどの豚の群れが崖を下って湖になだれ込み、湖の中で次々とおぼれ死んだ。豚飼いたちは逃げ出し、町や村にこのことを知らせた。人々は何が起こったのかと見に来た。彼らはイエスのところに来ると、レギオンに取りつかれていた人が服を着、正気になって座っているのを見て、恐ろしくなった。成り行きを見ていた人たちは、悪霊に取りつかれた人の身に起こったことと豚のことを人々に語った。そこで、人々はイエスにその地方から出て行ってもらいたいと言いだした。イエスが舟に乗られると、悪

霊に取りつかれていた人が、一緒に行きたいと願った。イエスはそれを許さないで、こう言われた。「自分の家に帰りなさい。そして身内の人に、主があなたを憐れみ、あなたにしてくださったことをことごとく知らせなさい。」その人は立ち去り、イエスが自分にしてくださったことをことごとくデカポリス地方に言い広め始めた。人々は皆驚いた。

賛美 494「ガリラヤの風」

詞：由木謙, 1896-1985
曲：Lowell Mason, 1792-1872

ガリラヤのかぜかおるあたり、
「かみのみくにはちかづけり」と、
つけられしよりすでにひさし。
「きたらせたまえ、主よ、みくにを」。

- 1 ガリラヤの風 かおるあたり、
「神の国は 近づけり」と、
告げられしより 既に久し。
「来たらせたまえ、主よ、み国を」。
- 2 たたかいの日に 憩いの夜に
み国をいたう あつき新り、
絶ゆることなく 捧げられぬ。
「来たらせたまえ、主よ、み国を」。
- 3 憎み、あらい 後を絶ちて、
平和と愛は 世界に満ち、
み旨の成るは いずれの日か。
「来たらせたまえ、主よ、み国を」。

説教 「人間の回復への導く主」

賛美 529(1,3,4)「主よ、わが身を」

Make me a captive, Lord
詞：George Matheson, 1842-1906
曲：George W. Martin, 1828-1881

主よ、わが身を とらえたまえ、
さらばわが ころと きはなたれん。
わが つるぎを くだきたまえ、
さらばわが あだにうちかつをえん。

- ① 主よ、わが身を とらえたまえ、
さらばわがころ 解放たれん。
わが剣を くだきたまえ、
さらばわが仇に 打ち勝つをえん。
- 2 わがころは さだかならず、
吹く風のごとく たえずかわる。
主よ、御手もて ひかせたまえ、
さらば直き道 心み行くをえん。
- ③ わがからは よわく乏し、
暗きにさまよい 道になやむ。
きよき風を 送りたいまえ、
さらば愛の火は 内にぞ燃えん。
- ④ わがすべては 主のものなり。
主はわが喜び、また幸なり。
聖霊もて 満たしたまえ、
さらば永遠の 安きを受けん。

派遣

司式者 主は言われます。
「わたしは誰を遣わすべきか。」
会衆 わたしがここにおります。
わたしを遣わして下さい。

祝祷

アーメン

アーメン アーメン アーメン

後奏 「トッカータ 短調」 (E. シグー)

司式 光成 由樹
説教 向井 希夫牧師
奏楽 高橋 孝子

※お立ちになるのが困難な方は、
座ったままで礼拝をお守り下さい。
※讚美歌の最後には、基本的に「アーメン」を付けません。